

うえまち

2024年7・8月号

号外
2024 7発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第21回

難波宮跡
(中央区)

ある人物がいなければ、難波宮跡はビジネス街になっていたかもしれない。そう聞いて驚く人もいるでしょう。実は、難波宮(写真左)は長らく「幻の都」だったのです。陸軍用地だった法円坂一帯こそ、難波宮があった場所に違いない、そう考えた山根徳太郎博士(元大阪市立大学教授)が調査をしなれば、あれだけの一等地です。今頃は多くのビルが建ち並んだことでしょう。

第二次大戦前、平城京の大極殿にも使われた鴟尾(しび)瓦のかけらが法円坂から出土しました。これを見た山根博士は「ここが難波宮跡だ」と確信し、1954(昭和29)年から調査を開始します。しかし、なかなか成果が得られず何度も開発の波に襲われたそうです。それでも粘り強く発掘を進め、ついに大極殿を発見(1961年)。その後、保存運動にも力を入れ現在の姿になったのです。

難波宮跡からは前期(7世紀半ば)と後期(8世紀半ば)2つの時期の宮殿跡が見つかっています。前期は大化の改新の際、造営された宮と考えられ、後期は聖武天皇の時代にあたります。実際に、それぞれが置かれた時期はわずかですが、長年「副都」として機能しました。それだけ海外との玄関口であった大阪の役割は大きかったのです。



難波宮跡は歴史公園としての整備が進んでいる



春の桜やさまざまなイベントで人々が集う

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(<https://uemachiweb.com/>)連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

僧侶は聖職者である。聖職者とは、知徳に秀れ事理に通じている人のことで、他に神官、司祭(カトリック)、牧師(プロテスタント)を指す。僧侶は、出家した人が就き、僧、坊主(僧の家の主人)、住職(住持職の略で寺の首長)、和尚(特に禅宗で呼ぶ)、院主(禅宗で住職の代行者、法師(仏法の教師)など呼び名は多い。女性の僧は尼僧と称し、尼僧の住家を庵室と言うから庵主と呼ぶこともある。

修行僧は、男性を比丘(びく)、また乞士(こし)、女性を比丘尼(びくに)。寺で修行中の者は所化(しよけ)。年少の僧は小僧である。

僧侶の妻は、ダイコクと俗称し、大黒もしくは梵妻の字を当てる。妻帯の許されなかった僧侶の苦肉の呼び名であろう。浄土真宗では、坊主に對比して坊守(ほうもり)と称する。

僧侶は当初は戒律が厳しく、鳥・獸・魚など生ぐさいものは一切口に出来ないし、酒もたしなむことが出来なかった。そこで、馬肉を桜



相羽秋夫の

らくご
ハローワーク

僧侶

第31 職

『ハ五郎坊主』になって再出発



猪肉を牡丹、鹿肉を紅葉、鶏肉を柏と言ひ換えて、植物ならよからうと、妙な理屈を付けたのである。ちなみに、泥鰌(どじょう)は踊り子と呼んでごまかした。酒を般若湯(はんにとやとう)と、インドの高僧の名に置き換えたのも同様の理由による。

言葉が粗暴でぞんざいなハ五郎の性格を直してやろうと、隠居は知り合いの住職に頼んで寺に送り込む。

住職は、出家するには、まず頭を剃ることだと嫌がるハ五郎を宥め諭し(なだめすかし)丸刈りにしてしまふ。

そして法名を「法春」(ほうしゅん)と名付ける。だが、ハ五郎はこの名前を覚えられないので、紙に書いてもらふ。僧になった嬉しさに、ハ五郎は紙を友人に見せるが、見せられた方も読めない。最初の人は、春日(かすが)と読むことがあから、ホウカスではないかと判断する。

ハ五郎が、別の人にも尋ねると、法をノリと読んでノリカスが正しいと主張する。それを聞いたハ五郎「そうや、それで剃るなり付けるや」。

◇

オチは説明が要る。頭を剃るなり、すぐ名前を付けた、という意味と、米や麴など澱粉質で作った接着剤の糊(のり)を布に付ける時は、米や麴を板状の物の上で摺りつぶして、それをすぐに布に塗ることと掛けている。

こんな庶民の日常も過去のものになった。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06-6779-7222住まいと暮らしの
総合無料相談会

7月13日・9月14日(土)

10時～12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください(電話受付は平日10～15時)。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
(市立社会福祉センター指定管理者)
電話：06-6779-7222
場所：大阪市立社会福祉センター
(天王寺区東高津町12・10)
後援：天王寺区役所

第46回うえまち寄席

9月29日(日)14時開演

桂佐ん吉、桂ちようばによる、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET(チゲット)」から予約可能です。

場所：一心寺南会所天王寺区逢阪2・7
入場料：前売2500円当日3000円

「うえまちweb」
に新連載続々！

「うえまちweb」で、新連載が始まります。国立文楽劇場の協力のもと、初心者の方でも文楽が楽しめる文楽入門鑑賞レポート、上町台地で活躍中の人々に街への思いやおすすすめスポットなどを尋ねる上町台地人インタビューが新しくスタート。その他の企画も連載準備中です。

詳しくはうえまち新聞
web版をご覧ください。

うまいち

2024年7・8月号

号外 8
2024

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第22回

大阪歴史博物館
NHK大阪放送会館(中央区)

難波宮が置かれたように、上町台地の北端は古代王権にとって極めて重要な場所でした。難波宮以前にも、難波津と呼ばれる国際港や巨大な倉庫群が築かれています(法円坂遺跡)。大阪の源流はまさに上町台地にあったのです。

大阪歴史博物館とNHK大阪放送会館は、その倉庫群の真上に建ちます(写真左)。

法円坂遺跡が発見されたのは比較的新しく、1987(昭和62)年のことでした。博物館とNHKの新局舎の建設が決まったのはそのあとで、遺構を保存・活用するというミッションも課せられたため、けっこうな難工事だったといえます。それでも、2001(平成13)年に無事完成。「風をはらんだ帆船」をモチーフとした複合施設(博物館が船、NHKが帆をイメージ)は、新たなランドマークとなりました。ちなみに、博物館の地下1階では遺構の一部を保存、建物前の広場には高床式倉庫が復元されています。

実は、この周辺には、もうひとつ注目して欲しいものがあります。それは、道路をはさみNHKの北側にある大きな木です。その下に「舎密局(せいみきょく)跡碑」(写真右)があります。舎密とは化学のこと、ここが大阪初の公立教育機関でした(1869(明治2年)。舎密局はのちに第三高等学校となりいまの京都大学につながります。科学立国・日本の源流のひとつも大阪にあったんですね。



建物のモチーフは「風をはらんだ帆船」



このあたりに大阪初の公立教育機関があった

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うまいちweb」(<https://uemachiweb.com/>)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご
ハローワーク

ハ卦見(はつけみ)

第32職

吉凶をハ卦で占い『人形買い』



ハ卦見とは占いのする人のこと、ハ卦置(おき)とも言います。

◇

八卦見とハ卦置は占いのする人のこと、ハ卦置(おき)とも言います。

長屋に住む神道の先生が、端午の節句にチマキを配った。そのお返しに、1軒百文を徴収し24軒で2貫4百文を集めて気の利いた人形を贈ることになる。

人形店で2貫3百文で購入し、余った百文で、世話役の2人は酒を呑もうとよからぬ計算をする。ところが、太閤秀吉と神功皇后の人形を決めかね、住人のハ卦見(はつけみ)に占ってもらおうと見料に百文取られてしまう。

占いで出た神功皇后に決め、神道の先生に持って行くくと、先生は喜び神功皇后のいわく因縁を語り始めるので2人「あかん、またお金取られる」。

中国の周の時代に生み出された占いの法で、日本には平安期に伝わった。

筮竹(せいちく)と算木(さんぎ)と呼ばれる道具を組み合わせ、8種の卦(け)を作り出す。さらにこれを基礎に64種に発展させて、吉凶や運勢を占うものである。

その八卦とは、乾(けん)・兌(だ)・離(り)・震(しん)・巽(そん)・坎(かん)・艮(こん)・坤(こん)を指す。

この八卦も含め、広く吉凶や運勢を予見する方法を、陰陽道(おんみょうどう)と称している。

平安中期には、日本では陰陽寮という役所が置かれ、宮廷や公廷の政治にも大きな影響を与えるようになった。とりわけ安倍晴明(あべのせいめい)は、たぐいまれな能力によって陰陽道家として名を馳せた。京に晴明神社、大阪に安倍晴明神社があり、大阪の阿倍野の地名も、晴明の生誕地から来たとの説もある。

「易者身の上知らず」という諺がある。他人の身の上の判断はするが、自分のことは分らない、の意である。「医者(い)の不養生」「紺屋(こんや)の白袴(しろばかま)」も同じ意味の諺だ。

相撲の行司が「はつけよい! 残った!」と力士に発破を掛ける言葉の「八卦良い」は、運勢も良いので、さあがんばれ! と激励しているのである。陰陽道と相撲が深く結びついている一例である。

大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

「プロ」でもうっかり間違ったり」の使い方

本を読んだり音楽を聴いて過ごしています。

パソコンソフト「Word」を使つて書いた学生の文章を読むと、青い波線がよく目につきます。ご承知のようにこのソフトには校正機能があり、青い波線は文法の間違いなどを表しているのですが、目立つて多いのが例題のような「たり」に関するものです。並列助詞「たり」は、「〜たり、〜たり」という具合に、必ず反復して使わなくてははいけません。

本を読んだり音楽を聴いたりして過ごしています。

「たり」に関しては、プロでも間違えることが多く、手元にある『新聞用事用語集』でも「誤りやすい語句」に挙げられています。ただし、「うっかりミス」がほとんどでしょうから、青い波線を見たらプロはすぐに修正します。学生さんのように、青い波線を見ても放置するようなことはありません。

並列助詞は他にもあって、「とか」や「だの」も同様です(「揚げ物だのラーメンだの、カロリーの高いものばかり」。「納豆とか梅干しとかが、私は嫌い」)。青い波線の部分「が「たり」「とか」「だの」だったら……」。何をすべきか、もうおわかりですね。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。